

小さき兄弟会(OFM)



教会と世界において小さき者として 聖霊の招きに応える

「わたしは、お前たちのために立てた計画をよく知っている、 それはお前たちに希望のある将来をもたらす繁栄の計画」 (エレミヤ29:11)



2021年ローマ総集会総括文書

2021年7月17日総集会において承認

序文

祝されたフランシスコは、日々、主である神が仲間の数を増やしてくださるのを見て、自分自身と、現在ならびに将来の兄弟たちのため、それを完全[に実践すること]をひたすら渇望していた聖なる福音の言葉をおもに用いて、生活様式と規則を、単純に、そしてわずかな言葉で書き記しました。とはいえ、この聖なる生活の実践に必要不可欠な他の事柄も、わずかながら書き添えました。(1Cel XIII, 32)

小さき兄弟としての私たちのアイデンティティの本質は福音にあります。福音は聖フランシスコにとって始まりであり、エネルギーとインスピレーションを見出す場なのです。彼は、『会則』に多くの「決まり事」を入れることを望みませんでした。それは、福音が私たちの生活の中心であること、すなわち、私たちの主イエス・キリストが、すべての人間の救いのための善い知らせであることをハッキリさせるためです。

私たちのアイデンティティとは何かをあらためて問うことは、福音に耳を傾け続けるということを意味します。私たち兄弟の生活を、現代に生きる人々がどっぷり浸っている時代の兆候を、より大きな光で読むことを可能にする「みことば」に耳を傾け続けるのです。ですから、困難な時期であっても、このように前向きな姿勢で臨むことができると、わたしは考えています。福音に耳を傾け、今の人々の生活と言葉を見つけること、それは私たちのビジョンを新たにするのに役立つのです。

この総集会で私たちが聞きたかったのは、多くの人々、特に最も小さく貧しい人々の生活を通して聖霊は今日、何を私たちに語っているかということです。これは、本会がどこへ向かっているのかを知るための真の質問です。会員数や仕事やプロジェクトだけではなく、耳を傾ける勇気、福音を真に生きるための情熱についての質問なのです。

聖フランシスコが今日も、私たちに同伴してくれますように。私たちを圧倒するような無気力さを捨て、福音の新しさを生き、その自由と喜びを味わい、多くの人と分かち合うことが可能であると信じ、大胆な決断をする準備ができている兄弟として、聖霊の声に心を開いていくことが出来ますように。

兄弟として

BR. MASSIMO FUSARELLI, OFM

Jr. Manius Jusquell' spe

Minister general and servant

ローマ、2021年8月11日

アシジの聖クララの祭日に



総括文書

- 新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中、私たち100人以上の兄弟が、世界中からローマのカプチン・フランシスコ会、ブリンディジの聖ラウレンチオ国際大学に集まり、小さき兄弟会の2021年総集会を開催しました。兄弟たちの集まりはいつでも祝賀の機会ですが、今回の総集会は特に喜びの場であり、希望のしるしでもありました。
- 2. 今日、教会や世界が直面している様々な困難にもかかわらず、私たち小さき兄弟は、困難の中にも好機があることを認識しています。今回の凝縮された総集会の15日間では、2018年ナイロビで開催された総評議会 (PCO) で始まったテーマや良い働きの多くが引き継がれ、発展しました。総評議会の主要なテーマは、聖霊が今日、わたしたちの本会に何を語っておられるかを「聴く」ことでした。耳を傾けて聴くことによって、私たち兄弟は、神が教会と世界で私たちに差し伸べて下さっている多くの招きを確認しました。
- **3.** 私たちは、これらの招きのいくつかを兄弟の皆さんに伝え、兄弟的連帯の精神をもって、聖霊が私たちに差し出される招きを、熱心に、謙虚に、情熱をもって引き受けるように互いに励ましあいたいと思います。

I. 感謝への招き

- **4.** 新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まって以来、ローマカトリック教会の修道会で、最初に世界規模の総集会を招集し、その任務を遂行するのは小ささ兄弟会です。当初は2021年5月にフィリピンのマニラで開催される予定でしたが、ローマに集まり、忠実に、安全に、そして成功裏に本会と教会に対する責任を果たすことができたのは、奇跡としか言いようがありません。神に感謝するとともに、総集会の前と最中に、開催できるように精力的に働いた多くの兄弟たちに感謝します。
- **5.** 総集会に集うことができたという経験は、私たち全員に、兄弟的な召命という贈り物に対する感謝を新たにしました。全世界の兄弟たちは、このパンデミックの時期に、互いに離れて距離を置くことの辛さを味わっています。この2週間の間にローマで経験したことが、すべての兄弟にとって、再び実際に顔を合わせて集まりたい、という私たちの共通の願いの象徴となりますように。
- 6. また、ブリンディジの聖ラウレンチオ国際大学で、私たちを快く受け入れて下さったカプチン・フランシスコ会の兄弟的なホスピタリティと連帯感にも感謝します。彼らの謙虚な奉仕に私たちは深く感動しました。また、その惜しみない歓迎の態度は、私たち共通の兄弟性(fraternity)の深い根源を反映しており、聖フランシスコの会則と生活に従う共通の誓いが聖霊において私たちを互いに結びつける一つの希望のしるしを示しているのです。

II. 「ビジョンの刷新」への招き

7. 私たちがこの総集会を開催した時点で、全世界で400万人以上の人々がすでに新型コロナウイルス感染症で亡くなっており、さらに何百万人もの人々がこの未曾有のこの感染症の影響に苦しみ続けています。亡くなった多くの兄弟たちや他の何百万人もの男性、女性、子供たちを思い浮かべたら、「私たちの姉妹である体の死」(Cant 12)が近く私たちの心から離れることはありませんでした。総集会の開催典礼で、新型コロナウイルス感染症で亡くなったすべての兄弟のために祈りましたし、ローマに滞在中、さらに多くの兄弟たちがこの新型コロナウイルスに苦しんでいることを知りました。教皇フランシスコは、

歴史の中のこの時を、まさしく「危機」と「清算の時」と呼んでいます。危機の基本的な決まりは、そこから変わらずに同じ人としては出てこないということです。危機を乗り越えれば、良くも悪くもなります。しかし、決して同じ人ではありません」 (Pope Francis, Let Us Dream: The Path to a Better Future, London: Simon & Schuster, 2020).

- 8. 本会内外の「時のしるし」を正直に振り返ってみると、過去6年の間、人類家族とその他の被造物を苦しめる多くの「苦悩と不安」(GS 4.1)があったし、今もそれは続いています。そうでありますが、私たちは小さき兄弟として、「主イエス・キリストの足跡に従う」(RnB 1.1)ことを公言し、同じ主イエス・キリストから、すべての人に善い知らせを伝える福音の使者となるよう召されています。このような状況の中で、私たち兄弟は、世界が現在直面している危機の前には、単にこれまでと同じであってはならないのです。教皇フランシスコと共にそれを認識し、ビジョンを刷新し、未来を迎え入れることは私たちの責務です。
- 9. 総集会の間に大きなテーマとして浮き上がったものの一つは、フランシスカン・アイデンティティと兄弟的生活の刷新の必要性です。すべての人がそうであるように、私たちもまた、地域社会や国際社会の状況が変化することから影響を受けています。教皇フランシスコが言われたように、「私たちは、変化の多い時代ではなく、時代そのものの変化を生きている」のです。それは個人的にも集団的にも不安定を感じさせる場合があります(教皇フランシスコ「イタリア教会の第五大会の参加者との謁見」サンタマリア・デル・フィオーレ大聖堂、フィレンツェ、2015年11月10日)。小さき兄弟会の兄弟たちもこのような変化と無縁ではありません。私たちの召命は現世において「旅人、寄留者」(RB 6.2; Test. 24)であり、したがって世間で「宣教する弟子」(EG 120)となることであって、世間の支持者ではないことを思い起こさなければなりません。
- **10.** 私たちのフランシスカン・アイデンティティを刷新する務めは、識別、研究、養成、そして行動を必要とします。単に現状に甘んじる自己満足であってはなりません。神の民はもっと要求しています。私たちが聖フランシスコに倣って、より小さい兄弟となることを公約しているからです。「新たに始める」ことを恐れてはなりません。チェラノのトマスが思い出させてくれるように、聖フランシスコはその生涯の終わりに、「自分がすでに目標を達成したとは考えず、聖なる新たな決意をもって疲れも見せず耐え忍び、聖なる新しさを飽くことなく追求し、常に新たに始めることを望んだ」(1 Cel 103)のです。
- 「小さき兄弟」という私たちの名前には、私たちのアイデンティティの核心が含まれています。同時に総集会のある兄弟たちが言うように「フランシスカンとしての私たちのすべての行動に命を与える二つの肺」を指し示します。この二つの肺とは、フラテルニタスとミノリタスであり、それによって聖霊の息吹が世間での私たちの在り方全体に活力を与えているものです。私たちはまず兄弟です。私たちの兄弟的生活の在り方は、社会と教会において進んで選んだ小さい者の在り方なのです。広まっている個人主義のような社会的圧力や聖職者主義のような教会的圧力は、真のフランシスカン生活にあってはなりません。
- 12. この刷新は、本会の兄弟一人ひとり、そして各管区にとって具体的な挑戦です。総集会で何人かの兄弟たちが指摘したように、私たちフランシスカン・アイデンティティの核心である「より小さい兄弟」になるには、聖霊の招きに応じて社会の中の貧しい人々、疎外された人々、見捨てられた人々、蔑まれた人々、忘れられた人々と結び付けるという徹底的な献身(commitment)が必要なのです。単に自分たちを「小さき兄弟」と名乗るだけでは効果はなく、私たちはその名が要求することを実践しなければなりません。つまり、この世界で強制的に「小さく」された人々のために行動を起こすことです。そうすれば、社会の底辺にいる人に進んで同調する私たちが、支援を必要としている姉妹、兄弟に同伴

し、代弁できる者となるのです。

- 13. 兄弟性(fraternity)とより小さくある事(minority)を、フランシスカン・アイデンティティの中核とし、私たちの存在そのものを活気づける「二つの肺」として受け入れるようにとの招きには、初期養成と生涯養成のいずれについても私たちのアプローチを一新することを必要とします。この必要性に応えるために、私たちは異文化間の思考、兄弟的生活、そして奉仕職の実践にもっと深く関わるようにとの招きを感じます。総集会は、このような刷新を具体的に促進するために、養成・学問総事務局に役立つ資料やモデルの提案を検討しました。私たちは、本会のすべての構成単位(管区)と各管区の兄弟共同体が、兄弟性とより小さくある事がどのように理解され、実践されているかを共に考えることをお勧めします。それとともに、聖霊がさらなる回心、変化、成長へと招いておられる事に常に注意を払うようにとお勧めします。
- 14. 私たちが話し合っていた時に、会員でない姉妹と兄弟の状況や事情だけに注意を向けるのではなく、苦悩や何らかの形で苦しんでいる会員である兄弟たちにも注意を払う必要があることが明らかになりました。聖フランシスコが「会則」の中で述べているように、「一人ひとり互いに信頼を込めて、自分に必要なものを打ち明けなさい。まことに母親が自分の肉親の子を愛し、養うとすれば、兄弟たちはどれほど心をこめて、自分の霊的兄弟を愛し、養わなければならないであろうか。また、兄弟たちの誰かが病気にかかることがあれば、ほかの兄弟たちは自分がしてもらいたいと思うように、病気の兄弟に尽くさなければならない」(RB 6.8-9)のです。2019年に忠実と堅忍委員会で作成された文書「わたしたちの召命 一忠実さ:離れるか/残るか」は、私たちの仲間である、今、いろいろの形で苦悩している同志の兄弟たちを理解し、具体的に関わる提案を提供しています。総集会のメンバーは、各地の兄弟共同体がこの資料を参考にし、その具体的な提案に取りかかるようお勧めします。
- **15.** 2018年のナイロビ総評議会は、より良い観想的なFIM、派遣されて宣教する使命を帯びた観想的な兄弟共同体になるという観点から、私たちのフランシスカン・アイデンティティを刷新するためのパラダイムを提案しました。総集会として、私たちはこの呼びかけを確認し、私たちの兄弟的生活、ひいては私たちのミッションの基盤である「祈りと献身の精神」(RB5,2;LtAnt2)を守り、促進するための具体的な行動をとるよう、世界中の兄弟たちと私たち自身、挑戦し続けています。というのは、総評議会が私たちに思い出させてくれたように、「私たちはこの世において派遣されたものである:これが私たち小さき兄弟の存在理由であり、私たちは全身を込めて取りかかっている」からです(100)。
- 16. 私たちは総集会の会期中に、教皇フランシスコの在位中に生きていることがいかに摂理的であるかを指摘しました。「フランシスコ」の名を冠した最初のローマ司教である教皇は、本会の創立者に深い敬意を払っておられるだけでなく、フランシスカンのカリスマを深く理解しておられます。私たちが教会の歴史の中で特殊な「フランシスカン的な時」を生きていること、そして教皇フランシスコの教導職における教え、特に回勅「Laudato Si'」と「Fratelli Tutti」が、現代世界におけるフランシスカン的行動への挑戦であり、指針であることを、私たちは認めました。私たちは、各地の兄弟共同体がこれらの回勅を学び、それを基に祈ることを勧めるだけでなく、今後6年間にフランシスカンの刷新を具体的に生かすための指針として活用するよう、本会のすべての管区に呼びかけます。

III. 回心と悔い改めへの招き

▶ 17. 聖フランシスコの霊性には二つ特徴があります。それは、絶え間ない回心の経験と悔い改めの生活です。聖フランシスコは、その生涯の終わりに、より小さい兄弟となる自分

の根本的な召命を振り返って、それを悔い改めの生活への招きと呼びました。「主は、わたし兄弟フランシスコに、次のようにして悔い改め〔の生活〕を始める〔恵みを〕与えてくださいました」(Test 1)。そして、初期のフランシスカン運動では、多くの人が「悔い改めの兄弟姉妹」と呼ばれる共同体として知られていました(1LtF、2LtF参照)。私たちは、小さき兄弟として本来の召命の精神に基づき、今日、私たちをさらなる回心と悔い改めへと招いている幾つかのテーマを認めました。

- **18.** 私たちは、未成年者や弱い立場にある成人(vulnerable adults)を保護するための継続的な活動に、引き続き取り組むことを表明しました。悲しいことに、性的虐待の危機が、カトリック教会と同様に、小さき兄弟会にも影響を与えていない地域はありません。私たちは小さき兄弟として、性的虐待やあらゆる種類の虐待の被害者・耐え抜けた人に寄り添う決心を新たにするとともに、本会に委ねられたすべての場所が、すべての神の民、特に最も弱い立場の人々にとって安全な環境であるように常に努力していきます。
- 19. 本会内での虐待の告発に対処する際、正義と透明性を本会全体で保証するために、すべての兄弟と本会の全構成単位(管区)は、予防、報告、そして民政と教会の関係当局とに全面的に協力する義務があります。それを明確にするために、具体的な提案と立法が総集会で定められました。これは困難なチャレンジではありますが、必要な取り組みです。フランシスカンとしての私たちのアイデンティティの芯から生じるもの、また、さらなる回心と悔い改めへの招きでもあることを認識しています。
- **20.** 私たちは、退任する執行部の兄弟たちのたゆまぬ努力と、個々の恩人、財団、および本会の様々な管区の並外れた寛大さに感謝します。彼らの働きと支援のおかげで、総本部が経験した財政危機は、実質的かつ継続的な方法で対処されました。会計責任と透明性の新しい仕組みが導入され、総本部と、総本部の財政支援に依存している重要な諸活動プロジェクト、宣教地などのため、本会の経済的持続可能性への道筋が示されました。
- 21. しかし、私たちは、この財政危機が本会にとって、会の会計財務をただ単純にこれまでと同じ方法で処理できないという「現実の確認」と「警鐘」であったことを認識しています。財政危機はまた、何よりも自信と信頼の危機でもありました。後戻りはできません。新しい道を歩まなければなりません。これは、恩人から託された様々な贈り物を忠実に管理するために、私たちに求められていることです。総集会への報告の中で総会計は、他者からの寛大な贈り物の管理者としての使命、価値観、責任をどのようにして兄弟の生活に統合するかを総合的に考える一つの方法として、「兄弟性の経済'fraternal economy'」という言葉を使いました。
- 22. 総集会中に頻繁に浮上したもう一つのテーマは、私たちの兄弟共同体における聖職者主義についてです。「私たちは皆、兄弟である」という聖フランシスコの絶え間ない励まし (RnB 22, 33; Adm.7) や、兄弟共同体の中で「すべての兄弟は完全に平等である」という私たちの会憲 (GGCC 3:1) に明確に表現されています。それにもかかわらず、私たちは、この点に関して言うことが、世界中のすべての管区や地域の兄弟共同体において、必ずしも実践に移されているとは限らないことを認めるものです。
- 23. 2018年の総評議会は、教皇フランシスコの定義を引用して、聖職者主義が「教会全体がその民の心にあかしするために召されているその預言の炎を消してしまう」こと、また聖職者主義は「教会の可視性と秘跡性が、選ばれた少数の人や悟りを開いた人だけでなく、すべての神の民に属することを忘れてしまう」(103)ことを思い起こさせます。総評議会が明確に述べているように、これは教会に存在する抽象的な危険ではなく、本物の兄弟共同体、福音の証し、フランシスカン・アイデンティティにとっても現実的な脅威なの

です。私たちの各共同体と多くの兄弟たちの心の中に根強く残る聖職者主義に対処するために、修道院レベルと各地域レベルでなされたことは、あまりにも少なすぎることを認めます。ルイス・アントニオ・タグレ枢機卿は、総集会の早い段階で私たちに語りかけ、私たちが教会に提供する賜物の一つが兄弟的な証しと修道生活であることを指摘して、この問題に取り組むようにと課題を投げかけました。

24. この目的のために、私たちは、この分野で継続的な回心を育む新しい方法を求め、すべての兄弟が行使したり、保持したりしているあらゆる職務、地位、肩書きに先立って、全員がまず兄弟であるという事実を決して見失わないようにと呼びかけます。個人主義や聖職者主義の弊害が、自己意識を歪め、より小さな兄弟としての真の召命を損なっていることを認める必要な悔い改めの姿勢から尻込みしてはなりません。総集会はまた、叙階の奉仕職に召されていない兄弟の固有な召命を強調することに特別な注意を払って、この分野での初期養成および生涯養成に取りかかる新しい方法を求めています。

IV. ミッションと福音宣教への招き

- 25. 小さき兄弟としての私たちの生活は、ミッションと福音宣教に向けられています。私たちは、自分たちのミッションは自分で作るものではなく、神のミッションである「ミッシオ・デイ」に参加するものであることだと分かっています。召命は主からのものであり、私たちが行うすべての善行は神に帰するものであることを、聖フランシスコは訓戒の中で常に明確にしています(Adm 5)。同様に、私たちが生活全体をもって福音を伝える者となるようにお召しになるのは神だからこそ(RnB 17.3)、生活の在り方(forma vitae)を「福音生活」(vita evangelica)と呼ぶのです。
- 26. その精神を今日実践すると、具体的にどのようなものになるか、教皇フランシスコは、「洗礼のおかげで、神の民のすべての構成員は宣教する弟子となっています」と念を押した上で、「すべてのキリスト教徒は、今ここで、積極的に福音宣教に従事するように求められています」と付け加えています。実は、神の救いに満ちた愛を体験した人なら、出かけてその愛を延べ伝えるためには長い訓練など必要ありません。その人は宣教者なのです。私たちはもはや、「弟子です」、「宣教者です」とは言わず、常に「宣教する弟子」であると言うのです(EG 120)。このことが洗礼を受けたすべての人に当てはまるのであれば、「私たちの主イエス・キリストの聖福音」(RB 1.1)を生きることを誓った私たち兄弟は、どれほど世界において福音宣教者として召されているでしょうか。
- 27. タグレ枢機卿は、教会が宣教するときは未来があることを思い出させて下さいました。これは私たち兄弟会にも当てはまります。自分のことだけを考えていては、未来はありません。福音化する兄弟共同体として他者のために召命を生きるとき、私たちには未来があるのです。総集会で、多くの祈りと議論を通して、私たちは、今日、ミッションと福音宣教の取り組み誓約を具体的に深めるため、聖霊から与えられた幾つかの招きについて識別しました。私たちは、世界に出向いて行き、すべての神の民、特に貧しい人々や何らかの形で疎外されている人々に寄り添うよう求められています。私たちはまた、福音宣教とは双方向のものであり、貧しい人々に寄り添いたいという私たちの願いは、私たちが姉妹や兄弟から福音化されるようにとの招きであることも知っています。
- **28.** 聖フランシスコは、その生涯の終わりに回想しています。回心のはじめは、「レプラを患っている人々を見ることは、あまりにも苦く思われた」が、「主が御自らわたしを彼らのうちに導いてくださいましたので、わたしは彼らに対して憐みを実行しました。そして、彼らのもとを去ったとき、以前のわたしには苦く思われたことが、精神と体にとって甘美なものに変えられていました」(Test 1-2)と述べています。同様に、現在の世界には、

社会が「苦しくて見ていられない」、「愛することもできない」と判断した人々が多く存在しています。このような人々にこそ、まず私たちが同伴するように、愛と憐れみと兄弟的な行動を通して福音を証しするように、聖霊は招いてくださるのです。

- **29.** 私たちは、若者たちに同伴するように聖霊に招かれていると感じています。それは特に、多くの若者たちが教会のような組織を信頼しなくなり、家族の信仰から離れたり、あるいは「教会脱出者」であったり、宗教に触れたことがなかったりする今の時代に、若者たちと共にいることが大切です。私たちは兄弟たちに、2018年3月に行われた若者をテーマにした「シノドス前会議の総括文書」を研究することを勧めます。この文書によく反映されているのは、教会、したがって私たちフランシスコ会に対して、「時のしるし」ともいえる若い姉妹たちや兄弟たちが助言、同伴、そして教会に参加してリーダーとなる機会を当然求めていることです。召命促進は重要ですが、第一の招きは、今の世の中で、協力者として、また「宣教する弟子」の仲間として、若者たちと一緒に歩むことだと分かっています。この世代の若者たちは、何が本物かを見極める心を持っています。私たちは、生活や奉仕職のあらゆる面で、より良い小さき兄弟となるようにその心から挑戦されているはずです。
- **30.** 聖霊が私たちに差し出しておられるもう一つの招きは、正義と平和、そして被造物の統合のために働くことであると認識しています。Laudato Si'とFratelli Tuttiにおける教皇フランシスコの本質的な教えを基に、私たちは統合的なエコロジーを促進するプロジェクトを実行するように求められています。このプロジェクトは、相互に関連する「大地の叫びと貧しい人々の叫び」(Laudato Si'49)を常に認識しなければなりません。貧しい人々が真っ先に、そして最も劇的に苦しんでいるこの気候変動危機の時期にあって、教会と世界のリーダーとして、人間と人間以外のすべての声なき声を代表して擁護することを約束します。
- 31. 私たちは、自分たちが地球を破壊していることを目撃しています。これは、自分たち人間の未来だけでなく、「私たちが共に暮らす家」(Laudato Si')の未来にも配慮するようにとの招きです。また、具体的な行動によって形作られる新しい生活の在り方を選ぶように招かれています。これは、今日、私たちが福音的清貧の誓いを実践するための一つの方法です。また、私たちは、環境破壊や荒廃に加え、広範な政治的不安や暴力が、安全と自由を求めて祖国を逃れる難民や移民のスキャンダラスな増加につながっていることをますます認識しています。聖霊が私たちを、難民や移民の姉妹や兄弟への配慮と同伴のために、より大きな取り組みへと招いていることを、私たちは知っています。
- 32. 今日、ミッションと福音宣教への招きに応えるためには、ベネディクト16世名誉教皇が「デジタル大陸」と呼んだ場所に入ることが必要です(2009年5月24日、「第43回世界コミュニケーション・デーのためのベネディクト16世教皇のメッセージ」)。ほとんどの人が時間のかなりの部分をインターネット上で過ごし、さまざまなソーシャルメディアを利用し、新しい形のテクノロジーに関わっています。ネット上には確かに危険が潜んでいますが、デジタル時代に福音宣教への招きが、この「デジタル大陸」に入って、私たちの言葉と行為によってイエス・キリストの福音を伝えることは福音宣教の一部分なのです。召命促進、グループ活動の組織作り、司牧的な奉仕活動など、現代社会でより小さい兄弟として行うほとんどすべてのことに、デジタル化は欠かせない手段です。
- **33.** このようなテクノロジーの発展と社会の変化は、これまで本会が考慮してこなかった 分野でより多くのトレーニングが必要であることを示しています。ソーシャルメディアと

¹ http://www.synod.va/content/synod2018/en/news/final-document-from-the-pre- synodal-meeting.html

デジタル技術に関しては、兄弟や他の人々が「宣教する弟子」として、激動の「デジタル大陸」を上手に利用するのを助けるガイドを作成する良い機会であると考えています。社会的現実の変化という点では、初期養成および生涯養成プログラムに、より良い異文化トレーニングと実践を取り入れる努力をしなければならないと考えています。ミッションと福音宣教への招きは重要ですが、それと同時に、効果的な福音の使者となるために、小さき兄弟として適切な準備も重要です。福音を告げ知らせることで、私たちは姉妹たちや兄弟たちを、イエス・キリストとの、また、お互い同士との親しい関係へと招いています。それは、この招きに応じる人に主が用意しているものを「来て、見なさい」という招待なのです。

V. 「私たちの未来を迎え入れる」ための招き

- **34.** 本会全体で兄弟数が全体的に減少している傾向はよく知られており、総集会での報告や議論の中で何度か繰り返し述べられています。これは特に、本会が存在する西欧諸国において顕著です。この統計的傾向はもっぱら否定的に見られがちですが、私たちは世界中の兄弟たちに励ましの言葉を贈りたいと思っています。
- 35. もっと長い歴史的観点から見ると、本会の人数は常に浮き沈みを繰り返していることがわかります。13世紀初頭にフランシスコ・ディ・ベルナルドーネという青年が単独で始めたプロジェクトは、彼が生きている間に、彼のビジョンである 「福音生活(vita evangelica)」を実践するために奮起した多くの男女を含むまでに成長しました。有名な話ですが、その大きな成長は、それまでにはなかった痛みや困難をもたらしました。同様に、現在の傾向と似ているような人数の減少の時期もありました。これは必ずしも破滅の兆しではなく、憂慮すべきことでもなく、創造的な再生のための時なのです。おそらく、数が少なくなるという経験は、私たちが「より小さくある事」への召命を新たな方法で再発見し、生きていくための招きかも知れません。私たちの未来は人数だけではなく、福音に従った私たちの生活の質と真正性にかかっているのです。
- **36.** 私たちの未来を迎え入れるということは、キリストに召され、聖霊に触発されて、派遣されて宣教する使命に生きるより小さい兄弟として、私たちを待っている未知の世界に、兄弟として共に歩むことを意味します。私たちはまた、世界の中で新たな成長と可能性を秘めた部分に目を向けるべきです。多くの場合、これらの諸構成単位(管区)は、持続の可能性を保つために特別な支援を必要としています。
- 37. 総集会では、今後6年間に本会がいくつかの重要な記念祭を迎えることに言及しました。まず今年は「勅書によって裁可されていない会則(RnB)」の800周年(1221~2021)を迎えています。今後数年のうちに、「勅書によって裁可された会則(RB)」(2023)、「被造物の賛歌」(2025)、「遺言」(2026)などの重要な文書の800周年、師父聖フランシスコの帰天(2026)のような歴史上の重要な節目、また本会を含むヨーロッパの宣教師たちがいわゆる「新世界」であるアメリカ大陸に到着したことなどの重要な地域的出来事を迎えることになります。
- **38.** 私たちは、このような記念日を、刷新と福音宣教の機会として逃したくありません。第一会の三人の総長たちが「勅書によって裁可されていない会則(RnB)の800周年を前にした2020年10月の書簡「生きること、従うこと」という書簡を書きました。「この記念日を祝う時の態度に関して、気にも留めずに博物館を訪れる人、観光客のように漠然とした好奇心を持ち、深く関わりたいとは少しも思わない人」、「しなければならないから」とか「あの博物館は有名だから、というような態度を避けましょう」。それよ

りむしろ、これらの歴史的な指標の一つ一つが、再生と希望のためのカイロス(重要で意味のある時)であり、さらなる招きであり、チャンスであり、選ばれた時である、と私たちは信じています。私たちは、これはまたも過去を見直すだけでなく、むしろ本会のすべての構成単位(管区)に対し、過去を見直すだけではなく、「未来を迎え入れる」機会として、生成的で斬新なものに目を向けて、これらのイベントを祝うよう呼びかけています。

- **39.** これらの重要な記念を祝うことに関連して、私たちは、フランシスカン家族のすべての修道会、特に三つの第一会と律修第三会(TOR)の間で、より大きな協力の意識を抱くようにと、聖霊が招いておられると信じています。これらの記念行事は、「家族再会の集い」のような機会であり、聖霊に招かれて、フランシスカン共通の召命に結ばれた私たちは、すでに始まっている良い仕事を土台にして、より小さい兄弟としての共通のアイデンティティに反映されている兄弟的な一致に向けて、実践的に努力することができるのです。
- **40.** 私たちは、主が「地の面(おもて)を新たにする」(詩篇104)だけでなく、「小さき兄弟会の面」をも新たにするために聖霊を送られることを常に念頭に置きながら、本会の構成単位(管区)構造を見直す必要性について話し合いました。私たちは、本会の統治方法の観点から、私たちが互いにどのように関わりあうかが、兄弟的連帯の精神に沿った形で私たちのミッションに最も役立つことを確認するために、あらゆるレベル(例えば、総本部、協議会、管区、分管区)で、組織化する方法を見直す必要があると考えています。このことは、異文化間、諸管区間、国際的協力や協働の奉仕職プロジェクトについて考えるときに、特に重要なのです。
- 41. また、私たちの未来は単に私たちだけのものではなく、他の人々と共有されるべきものであると私たちは認識しています。私たちは、フランシスカンの広い家族の中でも外でも、より広い範囲で協力するようにという聖霊の招きを、「無所有(sine proprio)」のもう一つの形として受け入れるようにという招きだと考えています。私たちは、交わりを脅かし、兄弟性を破壊する領土主義や「管区主義」への誘惑に打ち勝たなければなりません。どのようにしたら、信徒の姉妹や兄弟たち、他の修道会や信徒たち、そして宗教的な所属や地位に関係なく善意の人々との協力関係を深めるために、各地の兄弟共同体や奉仕の働きを開放することができるでしょうか。セクト主義、暴力、分裂が増加している時代に、そのようなモデルを必要としている世界に、私たちは普遍的な兄弟性の預言的な証しを提供することができます。
- **42.** 2018年総評議会は、私たちに、聖霊が語ることに「耳を傾ける」よう求めました。今、私たちは聖霊の招きに応え、教会と世界におけるより小さい兄弟としてのビジョンを刷新し、未来を迎え入れるために、現状維持の居眠りから「目覚める(起き上がる)」(エフェソ5:14)ことが求められているのです。

結びの祈り

43. 私たちが次の6年間に向けて前進し、常に「ビジョンを刷新」し、「未来を迎え入れる」ために努力するとき、私たちはすべての兄弟たちに、聖フランシスコが「全全体に宛てた手紙」の最後に捧げた祈りに参加するよう呼びかます。

全能、永遠、正義、慈しみの神よ、
惨めなわたしたちに、あなたご自身の故に、
あなたが望んでおられるとわたしたちが知っていることを実行し、
あなたのみ旨にかなうことをいつも望ませてください。
わたしたちが内的に浄められ、内的に照らされ、
聖霊の火によって燃え立たされて、
あなたの愛する御子、
わたしたちの主イエス・キリストの足跡に
つき従うことができますように。
そして、いと高きお方よ、ただあなたの御恵みによって、
あなたのもとに辿り着くことができますように。
あなたは完全な三位にして単一なる一性のうちに生き、治め、
栄光に輝く全能の神にまします。

アーメン。 (Lt0 50-52)

代々の代々に至るまで。

2021年 小さき兄弟会 総集会

勧告(Recommendations)

以下の勧告は、総集会での投票により決定されました。各勧告の最後には、それが**指令** (mandate) であるのか、**ガイドライン**であるのかが明記されています。「指令」とは、総長と総理事会に対するより拘束力のある指示を意味し、通常はより具体的な意図を示すものです。「ガイドライン」とは、むしろ、総長と総理事会の選択の指針となるべきいくつかの価値観を示すものです。

I. わたしたちのアイデンティティ

- ■.総長は総理事会と共に、福音宣教総事務局と養成・学問総事務局と協力して、ブラザーの兄弟と聖職者の兄弟(会憲3)、すべての兄弟の本質的な平等を促進するために、耳を傾け、見極め、行動する方法を明らかにし、すべての小さき兄弟の資力と可能性をより良く統合することを目的とした方法を計画し、作成し、実施するための行動をとる (ガイドライン)。
- 2. 総長は総理事会とともに、福音宣教総事務局と養成・学問総事務局と連携して、様々なレベル(管区長協議会、大陸)の集まりで準備された国際会議を開催し、養成と司牧・福音宣教の取り組みに関して道を切り開き、私たちのカリスマを表現する新しい方法を示すべきである(**指令1**)。
- **3.** 総長は総理事会とともに、本会のカリスマ的刷新と活性化のための重要な機会を提供し、現代の問題と懸念に応える希望に満ちたフランシスカンのメッセージを善意の人々すべてに提供する方法で、様々な800周年記念行事を活性化するための委員会を設立すべきである(**指令2**)。

Ⅱ. 兄弟的生活

a. 全般的に

- **4.**総長は総理事会とともに、今後6年間にわたり、管区長、分管区長、理事会、評議会、 そして院長たちを巻き込んで、異文化間、世代間、国際間等のすべての兄弟たちの、兄弟 としての本質的平等などの次元を含む、真の兄弟的生活を促進するための方法を開発する (ガイドライン)。
- **5.** 私たちの兄弟共同体に加わることを希望する多くの若者は、多様な社会経済的、政治的、文化的、家族的背景を持ち、多様な個人的経験を持っているので、管区長協議会や大陸レベルの地域では、養成・学問総事務局の支援を受けて、それぞれの協議会や大陸レベルのために、兄弟たちの兄弟的関係リテラシー*を促進し、強化するための、その場に応じた初期養成および生涯養成プログラムと教材を開発するべきである(ガイドライン)。「*リテラシー:知識や理解能力、それを有効活用する能力」

b. 兄弟的生活: 経済

- **6.**総長は総理事会とともに、各管区が自発的に総本部に寄付する方法(宣教基金と養成基金への寄付を含む)をどのように改善するかを研究すべきである。この提案は、各管区長協議会の議長に提出されるべきであり、承認されれば、次の総会までの間、実験的に発効させることができる。この最終的な変更を待つ間、任意の寄付は現在の手順を継続させよう(**指令3**)。
- 7. 総長と総理事会は、各管区の財務担当者との会合を招集し、管区主義を超えた連帯と 共同責任、透明性と説明責任、資産と資金の倫理的使用と社会的選別に重点を置いて、兄 弟性の経済と管理の精神を奨励し、形成するべきである(**指令 4**)。
- **8.** 総長と総理事会は、地域と大陸のレベルでの状況に配慮しながら、3年以内に、各構成単位(管区)の財務的な持続可能性の正確な評価を提供する最善の方法を研究し、定めるべきである(ガイドライン)。

c. 兄弟的生活:未成年者と弱い立場にある成人の保護

9. 私たち小さき兄弟は、一人ひとりの人間の尊厳を尊重する兄弟として生きることを目指しているので、未成年者や弱い立場にある成人を様々な形(権力、信頼、権威など)の虐待から守ること、また、そのような虐待によって直接またはその他の形で被害を受けた人に対して、公正で思いやりのある対応をすることに尽力します。

そのため、2021年総集会の指令は、以下の通りです(指令5):

- **a.** 総長と総理事会は、未成年者と弱い立場の成人の保護のための委員会 をできるだけ早く設立する。
- b. 各構成単位(管区)は、その国や地域の民法と教会法が必用とする要件に準拠した、兄弟たちのための書面による行動規範、および虐待の申し立てに対応するための書面による方針と手続きを策定する。
- c. 各構成単位(管区)は、文書化された方針と手続きに準拠して、虐待 の防止と報告について、宣教の場で働く兄弟と信徒(従業員とボラン ティア)を教育しなければならない。

Ⅲ. 養成

- **10.**養成・学問総事務局は、本会の各地域の文化や固有の課題を考慮しながら、初期養成および生涯養成の活性化を強化するために、管区長協議会、および管区養成事務局長とのネットワークを拡大する(ガイドライン)。
- ■1. 養成・学問総事務局は、管区長協議会と管区養成事務局長と協力して、初期養成のすべてのプログラムが、ブラザーの兄弟と聖職叙階された兄弟が、兄弟であることが第一のアイデンティティであることを尊重し、それを効果的に伝授する。初期養成、および生涯養成プログラムは、すべての兄弟がその賜物と本会のニーズに応じて、手技能から専門職まで、必要な訓練を提供すべきである(ガイドライン)。
- **12.** 養成・学問総事務局は、本会の適切なレベルにおける養成担当者、召命促進担当者、院長、および会計担当者の養成のための効果的な手段を作り出す(ガイドライン)。
- **13.**2018年のシノドスとその文書(「キリストは生きている」161参照)、および2018年のナイロビ総評議会(PCO)に促されて、2021年の総集会は、本会のすべての構成単位(管区)が、ポスト・キリスト教社会や非信仰社会から来た現代の若者を福音化し、要理を教え、キリスト教的価値観を浸透させる召命同伴プログラムを通じて、若者

に新たに焦点を当てることを呼びかけます。このプロジェクトの一環として、国際会議や 大陸会議を開催することも考えられます(ガイドライン)。

- **14.** 管区長協議会と構成単位(管区)レベルでの評価を受けて、総長と総理事会は、「**私たちの召命 -忠実さ:離れるか/残るか**」(2019年、忠実と堅忍委員会)という文書を用いて、人間的および/または召命の困難にある兄弟に同伴するための適切な提案を策定し、兄弟が過去に負った個人的な傷、および社会的な傷を癒し和解することができる治療の場としての兄弟的な感覚を育む(ガイドライン)。
- **15.** 各管区長協議会は、教皇庁立アントニオ大学 (PUA) での「統合的エコロジー」における新しい哲学修士コースを、兄弟たちが履修するように奨励すべきである (ガイドライン)。
- **16.**シンプルで希望に満ちた方法で福音を証しするためのソーシャルメディアの大きな可能性を考慮して、養成・学問総事務局は、構成単位(管区)と管区長協議会と協力して、文化的・地理的な文脈を考慮したソーシャルメディアの最善の使用のためのガイドラインと手順書(protocol)、およびソーシャルメディア依存症の治療のための手順書を開発すべきである(ガイドライン)。

IV. ミッションと福音宣教

- 17. 国外での宣教プロジェクトに参加することを望む兄弟は、福音宣教総事務局が提供する宣教者のプロフィール(人物像)を用いて、所属する管区長、または分管区長(もしくはその代理者)が行う真剣な識別プロセスを受けなければなりません(ガイドライン)。
- **18.**総長と総理事会は、福音宣教総事務局を通じて、本会の宣教プロジェクトに参加することを希望する候補者、すなわち総長直属のプロジェクトの候補者と管区や分管区直属のプロジェクトの候補者の両方に対して、適切な養成プログラムを提供する(ガイドライン)。
- **19.** 総長と総理事会は、管区長協議会と連携して、世界の中で本会が増加している地域において、統治構造、養成プログラム、財政の持続可能性に特別な注意を払うべきである (**指令 6**)。
- **20.** 福音宣教総事務局は、管区長協議会と大陸レベルでの草の根的なプロセスを通じて、また、同事務局がすでに進めているプロセスを踏まえて、教会の教えと本会の公文書に調和した、本会のための「福音宣教綱領」を作成します。管区長協議会、管区、諸管区間の既存の取り組み(initiative)は、それぞれの地域の特殊な状況と背景を反映して、独自の綱領を策定するべきである(**指令 7**)。
- **21.** 新しい「福音宣教綱領」は、活性化における真の連帯、宣教師の養成のための資源、 財源、人材の共有が本会内で促進されるように、総長直属の宣教プロジェクトと、管区長 協議会、管区、分管区に直属する宣教プロジェクトの両方を、本会の宣教プロジェクトと みなすべきである(ガイドライン)。
- **22.** 福音宣教総事務局は、管区長協議会の福音宣教事務局長や、各構成単位(管区)の様々なミッションと福音宣教に責任を持っている兄弟たちと共に、既存の協力関係のネットワークを拡大していきます(ガイドライン)。
- 23. 若者とその家族への福音宣教の手段として、総長と総理事会は、養成・学問総事務局を通して、本会が学校や教育機関で教育司牧に相当な関わりの原則、応用、プロセスを評

価し、さらに発展させる(ガイドライン)。

- **24.** 総長と総理事会は、福音宣教総事務局と養成・学問総事務局を通じて、霊性、司牧ケア、コミュニケーション、養成、財務などの分野で、司牧に携わる兄弟の養育・準備のための機会を提供する(ガイドライン)。
- **25.** 福音化活動のすべての分野において、兄弟たちは「ミッションの共有」と「シノダリティ(協働)」の精神で、信徒と協力するよう努めるべきである(ガイドライン)。
- **26.** 福音宣教とミッションにおいて、若者に特別な注意を払うべきである。若者の文化的、世代的な豊かさを重んじ、また 若者の使徒職は召命促進の自然な場であると考える。(ガイドライン)。

V. JPIC

- **27.** JPIC担当室は、本会の様々な文脈におけるJPIC問題に関する情報に特に注意を払いなら、統合的エコロジーに関するプロジェクトを結びつけ、発展させ、支援すべきである(ガイドライン)。
- **28.** 総長と総理事会は、JPIC担当室と福音宣教総事務局と協力して、「地中海のフランシスカン・ネットワーク」と「コルドン・フランシスカノ」を実施するための最も適切な方法を探し出すべきです。また、本会の関わっているすべての国境地域ですでに実施されている、移民を支援するすべてのプロジェクトとプロセスに協力しなければなりません(**指令8**)。

VI. 統治機構

- **29.** 総長と総理事会は、総本部と本会の機能的な構造・組織のグローバルな見直しを開始し、事務局、担当室、その他の本会の構造を通して、今日の私たちのカリスマをより実践的に表現することができるように、簡素化し、循環性を活性化すべきである(ガイドライン)。
- 30. 総長と総理事会は、総視察者の専任と職務のための養成プロセスを見直し、適応させるべきである(ガイドライン)。
- **31.** 総長と総理事会は、管区長協議会の現在の構造について全面的な見直しを行い、必要に応じて、総理事会と各構成単位(管区)、および各協議会との間の対話と交流を促進するために、協議会の構造と構成に適切な調整を行うべきである(**指令 9**)。
- **32.** 総長と総理事会は、より実践的で効果的な同伴を確保するために、現在総長の権限下にある宣教地区とミッションを、諸管区、もしくは管区長協議会に委ねる最善の方法を検討すべきである(**指令 10**)。
- **33.** 各構成単位(管区)は、管区間、国際間、異文化間の協力、および諸宗教との対話の発展を可能な限り奨励すべきである(ガイドライン)。

小さき兄弟会の総集会参加者への 教皇からのメッセージ

親愛なる兄弟の皆さん!

小さき兄弟会の総集会に参加されている皆さんに愛情を込めて挨拶いたします。総長としての務めを終えられた兄弟マイケル・A・ペリーに感謝の意を表します。その後継者として選ばれた兄弟マッシモ・ジョヴァンニ・フサレッリにも挨拶いたします。また、世界中のすべての共同体にもご挨拶申し上げます。

パンデミックの影響で、私たちは何ヶ月も前から孤立した苦しい緊急事態に置かれています。一方で、この危機的な経験は、私たち全員に、この地上の生活が巡礼者や見知らぬ人、旅人として、個人的な重荷や要求の負荷を軽減するために行う旅であることを認識させてくれます。一方で、それは、キリストとの関係、また兄弟姉妹との関係を強めるための好機でもあります。神の民の中で謙虚な預言者のような存在となり、すべての人のためのシンプルで喜びに満ちた生活の証人となるように召された皆さんの兄弟共同体のことを、私は考えています。

困難で複雑な時代にあって、「麻痺」する危険性があるにもかかわらず、皆さんは定例総集会を祝うという恵みを経験しており、それはすでに神を賛美し感謝する理由となっています。この総集会で、皆さんは「(わたしたちの)ビジョンを新たにし、未来を迎え入れる」ことを提案しています。皆さんは、聖パウロの言葉に導かれています。「起きなさい。そうすれば、キリストがあなた方を照らしてくださいます」(エフェソ5:14)。それは復活の言葉であり、復活したキリスト以外には刷新も未来もないので、あなた方を過越のダイナミックに根付かせます。したがって、感謝の気持ちをもって、神の現存と行動のしるしを歓迎し、自分たちのカリスマの賜物と兄弟的で小さき者としてのアイデンティティを再発見するために、皆さんは自分たちの心を開いているのです。

「(わたしたちの)ビジョンを刷新する」:これは若き日のアシジのフランシスコに起こったことです。それは、レプラを患った人との出会いであり、「苦いものが魂と体の甘美に変わった」(遺言 1-4)体験です。あなた方の霊性の根底にあるのは、「あわれみを行う」というしるしのもと、最も貧しい人や苦しんでいる人との出会いです。兄弟に差し出された「あわれみの行い」を通して、神はフランシスコの心に触れられました。そして他者、特に最も困っている人々との出会いを通して、神は私たちの心に触れ続けてくださいます。神の現存のしるしであり、ほとんど秘跡ともいえる貧しく疎外された兄弟姉妹を、観想する、その新しいまなざしからのみ、みなさんのビジョンの刷新は始まるのです。この新たなまなざしを通して、隣人との出会いとその傷との具体的な経験から、聖フランシスコが自らと皆さんのために選んだ「小さき兄弟」という美しい名前の通り、兄弟として、小さき者として、未来を見据えるための新たなエネルギーが生まれます。

あなた方が必要としている新たな力は、神の霊、すなわち、神の働きの紛れもないしるしである 「聖なる働き」(会則 10: 8)から来ています。フランシスコのレプラを患った

人との出会いの苦さを、魂と体の甘美に変えたその聖霊は今も働いていて、私たちの時代の最も小さな出来事に心を動かされるならば、あなた方一人ひとりに新たな新鮮さとエネルギーを与えてくださいます。私は皆さんに、魂と体で苦しんでいる人々に会いに出向いて行くことをお勧めします。大げさなスピーチはせずに、謙虚で兄弟愛に満ちた存在感を示し、小さき者である兄弟としての親しみを感じさせるのです。私たちの共通の家である傷ついた被造物に向かって、少数の人を豊かにするために地球の財を歪んだ形で搾取し、多くの人に不幸な状況を作り出していることに苦悩すること。壁ではなく橋を築こうとする対話の人として、共通のビジョンの道を見つけるのに苦労している世界に、兄弟愛と社会的友情の贈り物を提供するために出向いて行くこと。平和と和解の人として、憎しみ、分裂、暴力をもたらす人々に心からの悔い改めを促し、犠牲者に真実、正義、ゆるしから来る希望を与えるために出向いて行くこと。このような出会いから、皆さんは、自分の道であるあの言葉(「私たちの主イエス・キリストの聖福音を守ること [会則 1:1])に従って、福音をこれまで以上に完全に生きるための原動力を得ることができるのです。

修道会の多くが会員数の減少と高齢化という課題に直面していますが、神の霊があなた方の中に、またあなた方の間にもたらす刷新と再生に心を開くことを、不安や恐れに負けて妨げてはなりません。皆さんには、計り知れないほど豊かな霊的遺産があります。それは福音生活に根ざし、祈り、兄弟性、貧しさ、小さき者、巡業の旅によって特徴づけられています。

私たちは、貧しい人々、現代の奴隷制の犠牲者、難民、この世で排除されている人々に近づくことによって、神の未来へと私たちを開くことができる、新たなまなざしを受けていることを忘れないでください。彼らはあなたの教師です。聖フランシスコがしたように、彼らを受け入れてください!

親愛なる兄弟の皆さん、いと高き全能の善なる主が、皆さんをより信頼できる喜びに満ちた福音の証人にしてくださいますように。また、簡素で兄弟愛に満ちた生活を送らせてくださいますように。そして、信仰と希望をもって善き知らせの種を蒔くために、世界の道を歩ませてくださいますように。このために、私は祈り、祝福をもってあなた方に同伴します。そして、私のために祈ることも忘れないでください。

ローマ、聖ヨハネ・ラテランにて 2021年7月15日

Franciscus



総則改正 新規/変更箇所(主なもの)

*総則改正[新規]

総則 46条 [新規]: フランシスカン生活の兄弟性の次元と、より小さい兄弟であるようにという呼びかけは、小さき兄弟会が未成年者と弱い立場にある成人への性的虐待という悪に、どのように対応すべきかに直接関係しています。「すべての人の兄弟」として、すべての兄弟は、未成年者と弱い立場の成人を含む、すべての人間の尊厳と価値を尊重するよう求められています。この求めに対する修道会全体の一貫した対応を確保するために:

- (1) [新規] 未成年者と弱い立場にある成人の保護のための常任委員会を設置します。
- (2) [新規] 各構成単位(管区)は、兄弟たちが携わっている種類の司牧的・教育的活動に適した、未成年者と弱い立場の成人保護に関するすべての事柄のために、機構、手続き、手段、教育プログラムを確立しなければなりません。
- (3) [新規] より効果的であると判断される場合には、同じ地理的区域又は同一管区長協議会にある複数の構成単位は、共通の機構、手続き、手段及び教育プログラムを設定することができます。
- (4) [新規] 未成年者及び弱い立場の成人保護のための本会常任委員会は、これらすべての機構、手続き、手段及び教育プログラムについて知らされなければなりません。また、総長と総理事会に報告しなければなりません。
- (5) **[新規**] これらの機構、手続き、手段及び教育プログラムの実際の機能状態は、必要な場合には、その分野の外部の専門家の助けを借りて、総視察者による公式訪問中に評価されなければなりません。

総則 256条(1) [新規]:未成年者及び弱い立場にある成人への性的虐待がある兄弟によって犯されたという、少なくとも真実らしく思われる情報を得た時はいつでも、管区長あるいは自治分管区の分管区長は(教会法第1717条参照)、教会の普遍法に見られる規範に従い、また部分教会及び国家の規範に応じて、適切にまた注意深く行動しなければなりません。

(2) [新規]:管区長や分管区長が在職中にとった、「国家当局のものや教会法上の、行政上又は 刑罰上の調査について、妨害や回避を目的とした作為や不作為を形成する」いかなる態度も、職務からの免職のための懲戒手続を引き起こし、もし状況が正当化するなら、教会法第1389条第2項に述べられた犯罪のための刑事訴訟を引き起こします。

*総則改正「修正/追加]

第151条 (1) [修正] :総本部には、本会の業務一般を担当する総事務局の他に、以下の部門を置く。

- ・聖座との交渉を担当する聖座総代理部
-
- ・未成年者及び弱い立場にある成人保護のための常任委員会(新設)
- 第142条(2) 自治分管区長および総長直轄分管区の分管区長、総会計(追加)
 - (4) 荘厳誓願者300名以上の管区は+1、500名以上の管区は+2 (新設)

* 任期の制限

第217条(2)管区書記(事務局長)と管区会計の任期は、3年を3回(9年)まで。

NB:2021年ローマ総集会関連文書(イタリア語、スペイン語、英語、日本語) は以下のサイトからファイルをダウンロード出来ます。

http://ofm.jp/wp1/archives/585

このサイトの<**ここGドライブ**>をクリックすると共有フォルダが開きます。